



 西南学院大学



KARDIANOIA模擬入管

西南学院大学 国際文化学部 国際文化学科

水島 志織

私大連フォーラム2022



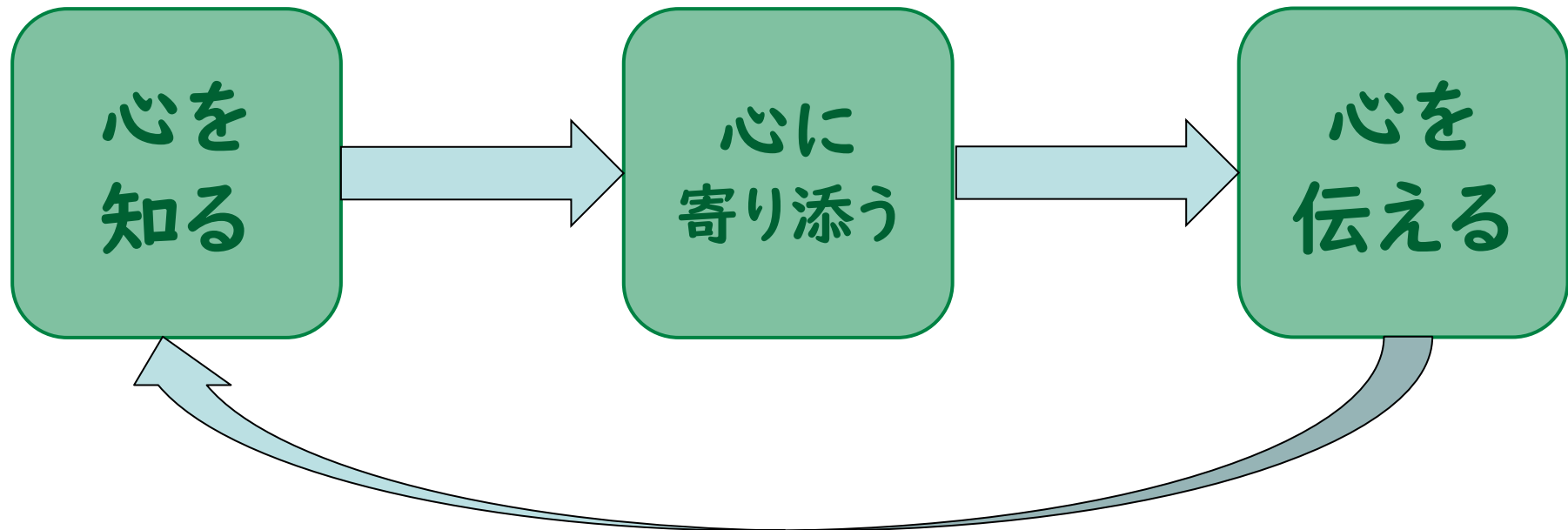


はじめに-活動目的

1. 心を知る
2. 心に寄り添う
3. 心を伝える

おわりに







● 移民・難民に関する映画鑑賞

『海は燃えている－イタリア最南端の小さな島－』
私達が日々の問題を意識しないうちは状況が悪化するだけだが、意識することで状況を変えられる。

心を知る

● 入国管理・難民保護に関する総論

- 日本における入国管理法制度の歴史
- 移住労働者の権利保障
- 難民の権利と認定手続

● 個別テーマに関するグループ報告

- 日本における技能実習制度の問題点
- 日本における難民受入の問題点





- **大村入管センター訪問に向けた準備**
 - 講師：竹内正宣行政書士（面会ボランティア）
 - 被収容者と向き合うときの心理や姿勢
 - 個人情報取扱と外部発信における注意

- **長崎大村入管医療訴訟**
 - 講師：稲森幸一・辻陽加里弁護士
 - 被収容者への医療提供の問題点
 - 訴訟による被害者救済の可能性

心を知る





● 大村入管センターの状況

- 鉄格子で塞がれた部屋に、宗教や国籍も違う多様な背景の人々が生活している。
- 送還される恐怖と収容が期限なく続くことに不安を感じる被収容者も多い。

心に
寄り添う

日本で生活するために頑張ってきたこと、収容されていても前向きに生活していることを直に聞くと、私たちと何ら変わらない「一人の人間なのだ」と感じた。しかし、今回面会した方々が入管法上収容されることは理解できるが、「なぜこのような方々が収容されているのか」という理屈では理解できない感情を抱いた。





2. 心に寄り添うー地域施設訪問

● 大村医療訴訟の傍聴

- 原告側の主張として、専門医の意見をもとに、弁護士から本来適切な治療法や時期が説明された。
- 国際法に基づく健康権や医療を受ける権利、インフォームドコンセントに関する主張も展開された。

心に
寄り添う

意見陳述の際、事実を述べるだけでなく、入管の対応がいかにか不当であったか、人の尊厳を踏みにじる行為であったことなど、心情に訴えるように主張しているように感じました。また、弁護士が国際人権規約を用いて人権侵害があったことを力強く主張されていて、それを目の前で見ることができたのはとても良い経験でした。





3. 心を伝える—地域社会への還元

西南学院大学

(1) 学園祭での展示会(11月12・13日)

- 自主学習成果や、地域社会学習・現地訪の感想などを模造紙にして展示した。
 - 学生が積極的に来訪者に入管・難民の問題を説明することで、**関心や知識**を深めてもらうことに成功した。
- 入管・難民に関する映像を投影し、関連書籍も設置した。
 - 映像や書籍から情報を熱心に受け取ろうとする来訪者も少なくなく、**社会的関心の高さ**を窺い知ることができた。

心を
伝える





(2) 絵画作文展(11月28日~12月4日)

- 仮放免の子どもたちが描く「家族の絆」(主催:入管を変える!弁護士ネットワーク)を招致した。
- 子どもたちが入管収容から一時的に身柄の拘束を解かれた状態で、家族が離れ離れになる**恐怖**と闘いながら、日本で暮らす家族の絆を描いた作品が集まる。
- 学生や教職員が立ち止まって絵画作文をじっくり眺める姿も見られ、それぞれの**感性**で社会問題を受け取る機会となった。

心を
伝える



(3) 講演会(12月4日)

- 入管施設内でのスリランカ人女性(ウイシュマさん)死亡事件を担当している駒井知会弁護士による講演会を開催する。
- 「ウイシュマさんの生きていけた世界を私たちの手で」「日本に辿り着いた難民の直面する問題について」という2本だての内容を予定している。
- 遺族に寄り添いながら日本の入管制度を変えようと奮闘する弁護士から、あるべき日本の社会について学ぶ。

心を
伝える





(4) 入管面談シミュレーション(12月11日)

- 被収容者は、自国に帰れない事情を抱えながら、退去強制に晒される**恐怖**と、先の見えない**長期収容**に苦しんでいる。
- 本シミュレーションでは、大村入管センターで面談を実体験した学生が被収容者役を演じ、参加者が訪問者となって面談を行う。
- 参加者は、その面談を通じて、被害者の気持ちを感じる「**心**」を探求する。

心を
伝える





(5) 入管裁判シミュレーション(12月11日)

- 大村入管センターでの被収容者が、治療を受けれずに健康状態を悪化させたことから、政府を相手に医療訴訟を提起した。
- 本シミュレーションでは、裁判傍聴を実体験した学生が、弁護士が展開した「健康への権利」に関する弁論を再現する。
- 参加者は、その裁判傍聴を追体験することで、被害者の苦境を救う「知」の可能性を探究していく。

心を
伝える





(1) 入管・難民問題の重大さ

- 講演、被収容者との面談、裁判傍聴などを感じて書籍やインターネットでは得られない「**生きた**」事実を得た。

(2) 自分たちが得た知識・体験を地域社会に発信することの困難さ

- 被収容者や被仮放免者の個人情報**を保護するため**、知り得た情報の**すべてを公開できない**こと。
- 被収容者との面談、裁判傍聴などで**主観的に得た体験を**、シミュレーションなどを通じて、**どこまで客観的に伝えられるか**。

(3) 地域社会連携における有機的な循環

- 同じ社会問題に取り組む**地域の人々から心と知をインプットし**、それを地域社会に**還元していく**ことで、**新たな心と知を生み出す**。



ご清聴ありがとうございます

🔍 KARDIANOIA模擬入管 ×

 西南学院大学

<http://www.seinan-gu.ac.jp/>

国際の狭間に置かれた
人々に寄り添う

心と知

KARDIANOIA

